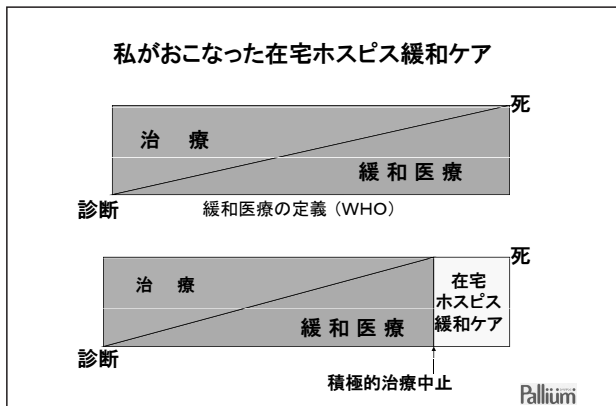


## 地域で最期まで生きることを支える技

川越 博美<sup>1)</sup>

私は、訪問看護制度ができる前から「最期の時は家で過ごしたい」という末期がん患者さんと家族を訪問看護師として支えてきました。今日は私の実践の中で気づいたことをお話させていただきます。後輩の方々が、在宅ホスピスケアの担い手として、末期がん患者さんが、「家に帰りたい」と望んだとき、その望みを叶えるため、地域に在宅ホスピスケアを根付かせて下さることを願っております。



1

現代ホスピスの最大の問題は  
ケア(看護師)が医療(医師)の後ろに  
追いやられていること

Hospice is primarily  
a nursing intervention,  
A philosophy of patient care designed  
To keep the patient as comfortable  
And functional as possible until death.  
(Mor V. :Hospice Care Systems, 1987)

Pallium

3

ホスピスの歴史について

ホスピスの発祥 ローマ時代

近代ホスピス 17世紀 SISTER'S OF CHARITY(仏)

現代のホスピス 1967 施設型ホスピス(英)  
1974 在宅型ホスピス(米)  
1975 病棟型ホスピス=PCU(加)  
1977 NHO(全米ホスピス協会)の設立

ホスピスケアは、  
死から生を  
観るケア・医療

Pallium

2

在宅ホスピスケアの考え方

原則1:  
ホスピスケアは全人的ケア  
医療はケアの一部、看護がケアの主体  
チームでケアをする

原則2:  
予測される余命を考慮し、  
予防的に症状をコントロールする

Pallium

4

1) 訪問看護バリエーション

**私の気づき①**

在宅ホスピスケアは看護が中心的に担う

↓

看護が頑張っても解決されない問題

↓

チームケアの重要性

↓

医療機関とは異なるチーム

Interdisciplinary team multi leader

Pallium

5

**私の気づき ②**

スピリチュアルケアの大切さと難しさ

明日なすべきことがあること、それが生きる力につながることを教えられたように思う。  
何もないことが絶望なのだ。  
「明日からすること」それはまさに死に逝くため準備をすることだったのではないだろうか

田中信子「やすらかな死」より

Pallium

9

**在宅ホスピスケアにおいて チームケアが厳しく問われるわけ**

死にゆく人がもつ全人的な苦痛  
生活から生じるニーズ

(ケアの期間が限られている)  
(ひとり暮らし・高齢者世帯の増加)

Pallium

6

どんなに辛く惨めな体験でも、それを“意味”ある体験にする方法を見つけて、その体験を通して成長する、あるいは成熟することを支えられるようなケアが必要であり、願わくばナース自身も患者のこのような経験を通して成長したいものである

遠藤恵美子:希望としてのがん看護

ナースの責任は、人々がより高い意識へと移るために、自分の内部の力を認識できるように援助する  
「拡張する意識としての健康」

M.Nyuman

Pallium

10

**ボランティアの関わりは？**

ボランティア

生活を豊かにするニーズ

家事ニーズ

介護ニーズ

医療ニーズ

Pallium

7

答えのない問いに対する答え  
その答えの根源は

死の痛み、苦しみの共有

Geteiltes Leid Ist Halbes Leid Geteilte Freud Ist Doppelte Freud

ともに喜び、ともに泣く

Pallium

11

**パートナーシップ**

連絡 — 声がかかる関係 — 役割分担

↓

連携 — 顔がかかる関係 — 情報の共有

↓

協働 — 心がかかる関係 — ケア方針の共有

↓

ディスカッションができる関係 — メンバー同士の信頼

Pallium

8

**私の気づき③**

家族のケアが重要  
(家族は介護する人でありケアされる人)

・家族を自分の価値観で批判しない  
パターンリズムの排除(看護師の意見が正しい)  
信頼関係の構築(初回訪問が重要)

・家族の考えに寄り添いながら、家族に適した対処方法を根気強く交渉し続け・合意する

・家族の力を信頼し、家族の力を引き出す

Pallium

12

### 私の気づき④

患者本人と家族のケアだけでは足りない  
看護の対象は

- ①個人・家族
- ②集団
- ③地域

Pallium

13

### ホスピス活動は、社会を文化を創る活動

ホスピスは単なる医学と看護学だけの  
テーマではなく、日本をより暖かい社会にする、  
あるいは、よりよい文化を作る仕事です。

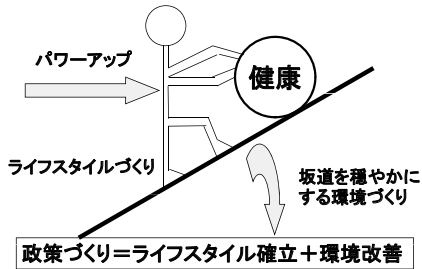
いかに死に逝く人を温かく見守ることができる  
かは、日本の社会や文化を評価する尺度にも  
なります。

アルフォンス・デーケン「響きあう心」

Pallium

17

### Health Promotion



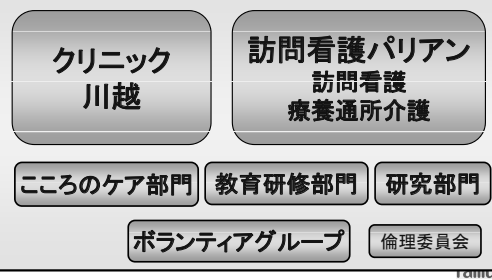
図解ヘルスプロモーション (馬内憲夫、1987)

Pallium

14

### 医療法人パリアン

在宅ホスピス・緩和ケアの専門組織



Pallium

18

### SSMベースのアクションリサーチによる 市民とともに築く「家で死ねるまちづくり」

参加者(すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会)

- 区民(遺族・ボランティアなど)
- 医師(診療所・緩和ケア病棟)
- 訪問看護師
- 保健師
- 薬剤師
- 病院相談員
- 介護支援専門員
- 地域包括支援センター職員
- 社会福祉協議会職員
- 行政職員・元職員・退職校長会



Pallium

15

### ホスピス緩和ケア訪問看護ステーション (訪問看護パリアン)



Pallium

19

区民参加  
多職種型

医療主導型

People-centered  
Interdisciplinary-team  
Care System

Medical-centered  
Team  
Care System

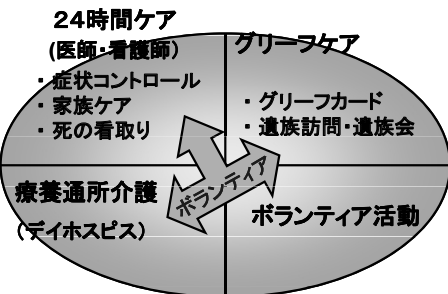
パートナーシップ

お互いの思考過程や決め方が違うことが理解できた。  
パートナーシップを組むためには、時間がかかっても  
関わる人々の“思い”を大切に、根気強く、実践を通して  
人々の繋がりを強める必要がある。

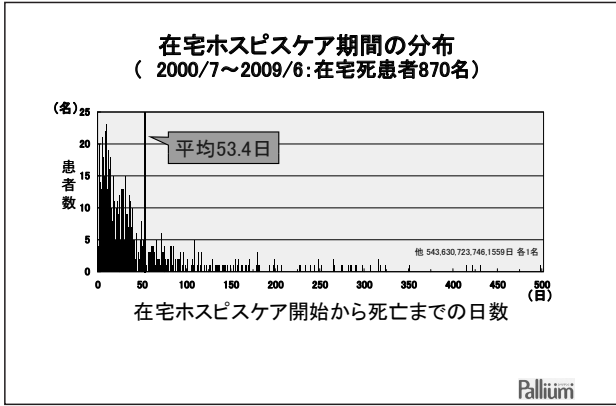
Pallium

16

### パリアンにおけるホスピスプログラム



20



21

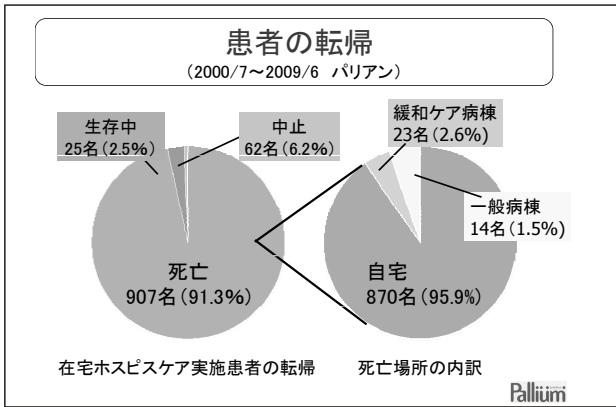
### 遺族への支援

#### ①メモルの集い(年1回)

故人を偲び、在宅での看取りの日々を他の遺族と共有する

Pallium

25



22

### ②グリーフカード

亡くなってすぐに送る便り(医師・看護師)  
1年目の命日に送る便り(ボランティア)

Pallium

26

### パリアンにおける看護師の裁量権

- ・医師の事前約束指示書による看護師の裁量権
  - 看護師の判断による麻薬増量・変更
  - 医師への報告
  - 死亡確認と死後のケア
- ・緊急連絡体制(ファーストコールは看護師)

Pallium

23

### ③サロン・ド・パリアン

毎週水曜日の午後  
対象者:遺族、患者、家族  
参加者:心のケア担当者、ボランティア2~3名

内容:お茶を飲みながら、自由に話す一時

2008年実績  
42家族 52名が利用

Pallium

27

### パリアンの療養通所介護の特徴1

- 目指す方向
  - 参加される末期がん患者方が、心地よく feel comfortable
  - 価値観が大切にされて feel of value
  - 孤立感が軽減される feel less isolated

J. B. Hopkinson, C. E. Hallett(2001) Patients' perceptions of hospice day care: a phenomenological study, International Journal of Nursing Studies, 38, 117-125.

Pallium

24

### ボランティアグループパリアンの概要

- 2002年に組織化
- 登録ボランティア数・・・56名(2009.4現在)
- 活動目的
  - ①患者及び家族の日常生活支援
  - ②在宅ホスピスケアの啓発
- 活動資金・・・ボランティア基金 遺族の寄付など

Pallium

28

## ボランティア教育プログラムの実際

- ・教育スタッフ：パリアンスタッフとボランティア
- ・日程：3日間(11.5時間)
- ・講座内容：ホスピスケアとは・死の過程  
死にゆく人と家族の心理(含遺族ケア)  
チームケア・コミュニケーション  
ボランティア活動について
- ・募集方法：HP・ポスターの掲示

Pallium

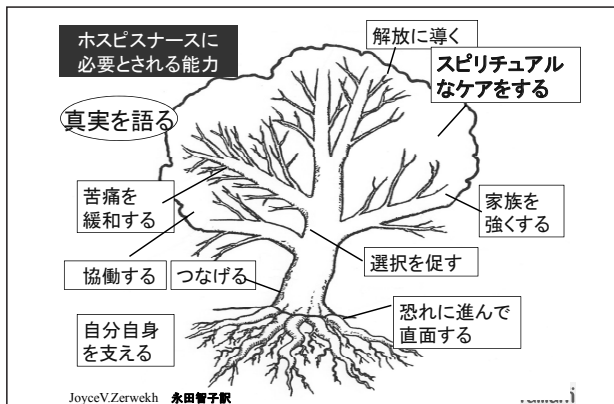
29

## 死に直面した患者としての経験

- 看護の重要性を再確認しながらも  
看護って何と問う？
- 看護師から聞きたい病状や予後(説明力)
  - 安全な医療的なケアがもたらす安心
  - 療養上の世話がもたらす安寧  
身体に触れてもらえる
  - 家族を支えてほしい
  - 共に泣いてくれた看護師

Pallium

32



30

「自分の家で最期まで生き抜きたい。」  
たとえ一人暮らしであっても、どれほど重度の  
障害をもっていても、どんな家であろうとも、  
ここで大好きな家族や友人に見守られ、  
わがままを貫き通せる人生を、  
きっぱり主張する人の存在。  
これこそ我々の実践の最大の激励者である。

(増子忠道:最期まで家にいられる在宅ケア)

Pallium

33

## 在宅での死の看取り

- ・私は、一生懸命家で介護したのに、最期死ぬために  
病院へはいるのはもったいないと思うことがあります。
- ・人間には終わりがあるのだということを分かって  
いなければならないということです。
- ・肉親の死はそう簡単には割り切って受け入れられるもの  
ではありませんから、家族が本人がどう思っているかを  
受け止めることをきちんとしないと在宅で死を看取るこ  
とは難しいでしょう。

(紅林みつ子 私の訪問看護体験ノート、1991)

Pallium

31

## “Five Things to Say”

I forgive you  
Please forgive me  
I love you  
Thank you  
Goodbye

Kenneth L. Zeri (ハワイホスピスCEO)

Pallium

34

